

第 12 回新型コロナウイルス感染症対策有識者会議 主な意見への対応状況

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
①道民への呼び掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・基本に立ち返り、手指消毒、マスクの着用、密を避ける等の原則に基づいて行動をしていただくよう改めて道からも、道民一人一人に訴えていただけるよう、お願いをする。 <p><関係する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治体と協力した発信 ・(道や道民など)みんなで取り組む必要 ・効果的な取組の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 8月10日から9月30日までの間、「BA.5対策強化宣言」の下、保健・医療提供体制の充実・確保を図るとともに、道民や事業者の方々にご理解・ご協力をいただき、基本的な感染防止行動の実践などの取組を進め、新規感染者数、病床使用率いずれも宣言前の水準を下回る状況となった。引き続き、道民や事業者の方々に必要な感染防止行動の実践などを呼びかけていく。 ○ 新たな行動制限を行わず、様々な社会機能の継続と感染対策の両立を図る観点から、三密の回避、人との距離の確保、手指消毒、マスクの着用、換気の徹底など、基本的な感染防止対策の徹底について、不断に呼びかけを行っているほか、高齢者や基礎疾患のある方など、重症化リスクのある方やそうした方に会う双方が基本的な感染防止行動を徹底するよう呼びかけている。 今後も引き続き、具体的な感染防止行動が実践されるよう、各々の場面に応じて、呼びかけを工夫するなどしながら取り組んでいく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの病床が確保できたとしても、コロナ陽性者への対応と、通常医療の救急患者の受入れの両立というのは容易ではないことを道民に理解していただかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで、一般医療との両立を図りつつ、必要な病床の確保を進めてきたところであるが、感染拡大に伴い、救急医療に支障が生じている地域も見られたため、ホームページ等で道民に対し、救急車の適正利用などについて、呼びかけを行ってきており、今後も引き続き呼びかけていく。 ◎ 感染症法に基づく発生届出の対象が65歳以上の方など4類型に限定されたほか、症状が軽いなど、自宅での速やかな療養を希望する方が、医療機関を受診することなく自己検査で陽性疑いとなった場合の判定・登録受付を行う「陽性者登録センター」を9月13日から全道展開するとともに、体調悪化時に24時間利用できる健康相談機能を備え、必要な方を医療につなぐ「陽性者健康サポートセンター」を整備し、9月26日から運営している。 今後、これらを一体的に運営し、健康フォローアップ機能を十分に発揮することで、医療機関等の負担を軽減しつつ、発生届出の対象外となる方についても、安心して療養していただく体制を構築していく。

※◎は、前回（8月末時点）から更新されている事項。

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
①道民への呼び掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済を止めないということ(行動制限をしないということ)と、個々人が感染対策をきちんとやるということは表裏一体でなければならない。 <p><関係する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの知見を活かして、経済活動と感染防止の両立に力を尽くしてもらいたい。 	<p>◎ 8月10日から9月30日までの間、「BA.5対策強化宣言」の下、保健・医療提供体制の充実・確保を図るとともに、道民や事業者の方々にご理解・ご協力をいただき、基本的な感染防止行動の実践などの取組を進め、新規感染者数、病床利用率いずれも宣言前の水準を下回る状況となった。引き続き、道民や事業者の方々に基本的な感染防止行動の実践などを呼びかけていく。</p> <p>○ 新たな行動制限を行わず、様々な社会機能の継続と感染対策の両立を図る観点から、三密の回避、人との距離の確保、手指消毒、マスクの着用、換気の徹底など、基本的な感染防止対策の徹底について、不断に呼びかけを行っているほか、高齢者や基礎疾患のある方など、重症化リスクのある方やそうした方に会う双方が基本的な感染防止行動を徹底するよう呼びかけている。</p> <p>今後も引き続き、具体的な感染防止行動が実践されるよう、各々の場面に応じて、呼びかけを工夫するなどしながら取り組んでいく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道民の方々が検査を受けるときには、陽性になるかもしれないという認識に立った上で検査を受けていただきたい。 	<p>○ 誰もが感染する可能性が高まる中、感染した場合に備え、家族で相談の上、3日間程度を目安に、嗜好品を含め、療養期間中に必要となる食品や日用品、発熱時の解熱剤などを用意するよう呼びかけている。今後も引き続き、感染した場合の備えについて呼びかけていく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策に関しても、実務的な内容がわかるような周知をしていただきたい。 	<p>○ 新たな行動制限を行わず、様々な社会機能の継続と感染対策の両立を図る観点から、三密の回避、人との距離の確保、手指消毒、マスクの着用、換気の徹底など、基本的な感染防止対策の徹底について、不断に呼びかけを行っているほか、高齢者や基礎疾患のある方やそうした方に会う双方が基本的な感染防止行動を徹底するよう呼びかけている。</p> <p>今後も引き続き、具体的な感染防止行動が実践されるよう、各々の場面に応じて、呼びかけを工夫するなどしながら取り組んでいく。</p> <p>◎ 全数届出の見直しに伴う支援の流れについて、様々な機会を通じて周知してきており、今後も引き続き、様々な機会を捉え、積極的な広報に取り組んでいく。</p>

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
②ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とする4回目の接種が本格化することから、接種に向けたPR、また着実な接種体制の構築をお願いしたい。 <p><関係する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種の促進についても、もっと周知を徹底することもお願いしたい。 ・ワクチン接種による効果をわかりやすい形で示していくことも重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ オミクロン株に対応したワクチン接種を積極的に検討いただけるよう、北海道ワクチン接種センターを含めた接種機会の活用などについて、多様な媒体を活用した広報の展開による呼び掛けを実施しており、引き続き、広報の展開を進めていく。 ◎ 初回接種を完了した12歳以上を対象とした、オミクロン株対応ワクチンの接種が開始されたことから、北海道ワクチン接種センターを含めた接種機会の活用などについて、多様な媒体を活用した広報の展開による呼び掛けを実施しており、引き続き、PRと着実なワクチン接種を進めていく。 ○ 道立保健所管内の陽性者情報をもとに分析したワクチン接種の効果についてのリーフレットを作成し、ホームページなどに掲載しており、今後もワクチン接種効果の広報に努めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や高齢者施設の従事者に対して、4回目のワクチン接種を早急に進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ オミクロン株に対応したワクチン接種が、現行の4回目接種対象者に対し、9月中旬から順次、前倒しで開始されている。10月中旬以降の本格実施に向け、道内市町村において、円滑な接種を実施できるよう、必要なワクチンの配分調整や接種券の発行手続等の情報提供など、積極的な支援を実施しており、引き続き、着実なワクチン接種を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機能が十分でないようなところでは施設を利用しているデイサービス等の利用者が、施設の入所者、従事者にワクチン接種をする際に、同じように接種できるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者施設利用者等への接種について、市町村においては、巡回接種等、円滑な接種に向け取り組んでおり、こうした取組を市町村間や施設管理者等で共有できるよう情報提供を行うなど、引き続き、市町村の取組を支援していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・エッセンシャルワーカーの方々、いわゆる緊急自動車に乗るなどして対応している方等々を4回目ワクチン接種対象とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 初回接種を完了した12歳以上の全ての方を対象とした、オミクロン株に対応したワクチン接種が開始されたところであり、希望する全ての方に速やかに接種が実施できるよう、必要なワクチンの配分調整や接種券の発行手続等の情報提供など、各市町村に対し積極的な支援を実施するとともに、国に対しエッセンシャルワーカーの方などの対象追加を求めてきた。引き続き、希望する全ての方に速やかに接種が実施できるよう、各市町村に対し積極的な支援を実施していく。 <p><知事会を通じて国に要望している項目></p> <p>4回目接種の接種対象者について、社会経済活動を維持するためにも、医療従事者の家族やエッセンシャルワーカーをはじめ、接種を希望される方の対象追加及び、3回目接種からの接種間隔の弾力的運用を検討するとともに、検討段階から自治体へ情報提供を行い、準備期間を確保すること。</p>

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
②ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代、特に10代へのワクチン接種等についての啓蒙・啓発・促進をお願いしたい。 <p><関係する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・20代、30代の3回目のワクチン接種や小児へのワクチン接種を進めることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 10月中旬以降、本格実施となるオミクロン株対応ワクチン接種を積極的に検討いただけるよう、学生向けポータルサイトやSNSへの広告など、若者向け広報の展開による呼び掛けを実施しており、引き続き、若い世代に向けたPR等を進めていく。 ○ 小児接種については、ワクチンの効果や副反応などについて、イラストを活用した啓発資材を作成し、関係機関と連携した周知や、道のホームページやSNSなどで情報発信を展開しており、引き続き、情報発信を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン未接種者、1回も接種されていない方々への啓発もぜひお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ オミクロン株対応ワクチン接種の広報と併せ、接種を希望される方については、1・2回目接種が引き続き可能との呼び掛けを実施。引き続き、接種促進に向けた呼び掛けを進めていく。また、道の接種センターでも、ノババックワクチンでの1・2回目接種を10月以降も延長して実施していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンのルーチン化について、道として必要な対応をどう取っていくかに関して、ぜひ国とコミュニケーションを取っていただく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワクチンの接種方針等を変更する場合には、検討段階から市町村に情報提供を行うとともに、速やかに財政面を含めた具体的な方針を示すよう、機会を捉えて国へ要請していく。
③医療提供体制	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科外来の休日当番の患者数が百名を超えることがあり、対応する病院は疲弊している。早急に対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな診療・検査医療機関の指定増のほか、休日を含む診療時間の延長の働きかけに加え、症状が軽いなど、自宅での速やかな療養を希望する方が、医療機関を受診することなく自己検査で陽性疑いとなった場合の判定・登録受付する「陽性者登録センター」や、体調悪化時に24時間利用できる健康相談機能を備えた「陽性者健康サポートセンター」を整備・運営しており、これらを一体的に運営し、健康フォローアップ機能を十分に発揮することで、医療機関等の負担を軽減しつつ、治療が必要な方を確実に医療につなげていく。こうした見直しに伴う支援の流れについて、様々な機会を通じて周知しており、今後も引き続き、積極的な広報に取り組んでいく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・集団感染を防ぐには、個々人が風邪の症状を認めた場合に、新型コロナ感染を疑っていただき、早期にコロナ検査を実施して、陽性の場合には休む体制を作っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 症状が軽いなど、自宅での速やかな療養を希望する方が、医療機関を受診することなく自己検査で陽性疑いとなった場合の判定・登録受付する「陽性者登録センター」や、体調悪化時に24時間利用できる健康相談機能を備えた「陽性者健康サポートセンター」を整備・運営しており、今後、これらを一体的に運営し、健康フォローアップ機能を十分に発揮することで、医療機関等の負担を軽減しつつ、治療が必要な方を確実に医療につなげていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・医療の逼迫は、病床確保のみで解決されるものではなく、病床とともに、医療従事者の確保がセットで論じられるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ covid-19 支援ナース派遣事業などを適切に運用していくとともに、国に対しても、地域医療に影響を及ぼすことのないよう現場に配慮した上で、医療人材を確保し、広域的な対応を図るよう要望しており、今後も引き続き、全国知事会と連携しつつ、機会あるごとに、国に要望するなどしながら、保健・医療提供体制の充実・強化に取り組んでいく。

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
③医療提供体制	<ul style="list-style-type: none"> ・入院が必要な方が着実に入院できるよう、コロナに対応できる病床数の拡充、自宅療養者に対するケアに万全を期していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ これまでも、「保健・医療提供体制確保計画」に基づき、確保病床数の拡充を図ってきたが、今後とも、地域の感染状況をきめ細かくモニタリングすることはもとより、各医療圏の体制などもしっかりと把握しながら、医師会をはじめとする関係団体や医療機関などとの連携を密にしつつ、入院治療が必要な方に対し、適切な医療が円滑に提供できるよう、体制整備に努めていく。 ○ 自宅療養者への支援について、道では、これまで、保健所による健康観察に加え、民間事業者や医療機関への委託により健康観察を進めてきたほか、外来やオンライン診療を行う医療機関はもとより、経口治療薬を提供する医療機関等についても、全ての保健所管内で対応できる体制を確保している。また、健康観察に必要なパルスオキシメーターを十分に確保するとともに、民間事業者に委託し、迅速に配付するほか、希望する方々への食品や日用品の配付についても、委託業者を新たに増やすとともに、「自宅療養セット受付センター」を設置し、スマートフォンや電話で速やかに申し込める方法とするなど、など、体制の強化を図っている。 今後とも、医師会等の関係団体や医療機関・薬局等との連携を、より一層深めながら、健康観察や診療の体制充実に取り組むなどして、自宅で療養される方々が安心して療養できる体制づくりに努めていく。
④感染者対応人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・(高齢者施設等に)感染対策の責任者を設置するだけでなく、感染対策に関する知識やノウハウを持つための研修を義務づける等して、名実ともに実効性のある職員体制を確保していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会福祉施設職員等を対象とした専門家などによる感染防止対策等に係る研修会の開催や研修動画の公開に取り組むとともに、国に対し、施設等の従事職員の感染対応力の向上を図るよう、求めており、今後とも、全国知事会と連携しつつ、機会あるごとに国に求めるなどしながら、感染の発生に備えた研修などの取組を進めていく。
⑤検査体制	<ul style="list-style-type: none"> ・お盆や夏休みなどの帰省時に、高齢者などに会う前に検査していただいて、陰性を確認していただきたい。 ・「高齢者施設等への頻回検査の効率的な手法の検討」について職員や施設の実情に応じたやり方をお願いしたい。 ・国と連携しながら、駅、空港などへの無料PCR検査施設の設置など、道民や来道者に向けた検査体制の充実をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療の負荷に直結する重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方など、重症化リスクのある方や、そうした方々に会う方の双方が、基本的な感染防止行動である3つの行動を徹底するよう呼びかけるとともに、高齢者等に会う際には、検査による陰性確認などを行うよう、呼びかけを行っており、今後も引き続き、こうした呼びかけを行っていく。 ○ お盆期間等における主要な駅や空港等でのPCR等無料検査について、多様な媒体を活用して、広報を行ってきており、今後とも、必要に応じて呼びかけていく。 ◎ 地域の感染状況などの実情を踏まえ、高齢者施設や障がい者施設のほか、新たに通所系事業所、保育所、医療機関などの従事者等を対象とした集中検査を実施しており、今後とも感染状況に応じた必要な検査を進めていく。 ○ お盆期間等における主要な駅や空港等でのPCR等無料検査について、多様な媒体を活用して、広報を行ってきており、今後とも必要に応じて、呼びかけなどに取り組んでいく。 ○ 医師会や薬剤師会、市町村等の関係機関のご協力の下、登録事業所の拡充に取り組んできており、今後も引き続き、積極的に働きかけていく。

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
⑥感染症対策の説明・検証等(特措法)	<ul style="list-style-type: none"> これまでの対策の効果、中でも飲食店に対する時短営業の要請がどのような効果があったかを検証する作業を速やかに行うよう道としても働き掛けていただきたい。 <p><関係する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> まん延防止措置等を適用する際、明確な基準を国の責任において明確に決めてもらいたい。 感染者が増加しているが、他の都府県や国の様子を見ていても、行動制限やまん延防止等重点措置への移行には至っていない、その理由をしっかりと説明する必要がある。 道においては、その地域性、産業構造などから独自の対策があり得るという観点を常に意識する必要があるものの、基本的には国の方針を参照しつつ、必要に応じて国に対し、方針の具体化や一層の積極的政策を求めていく対応が相当。 	<p>○ 具体的にどういった状況になれば、どういった内容の行動制限などの措置を講ずるのか、明確にする必要があるため、国全体での統一的な方針の下、レベル分類の見直しや特措法上の措置との関係の明確化を含め、これまでの対策の効果検証を踏まえ、国は早急に考え方を示すよう要請。引き続き、全国知事会との連携の下、機会を捉えて要請していく。</p> <p><知事会を通じて国に対し要請している事項></p> <p>まん延防止等重点措置や緊急事態措置、法令・諸制度の検討に当たっては、これまでの対策の効果を検証、分析した上で、専門家の知見や関係団体、地方公共団体の意見等も踏まえながら、ウイルス等の特性や感染状況等に応じた全般的な対応方針やまん延防止等重点措置等の適用基準を速やかに明確化すること。</p>
⑦教育活動の正常化に向けた方策	<ul style="list-style-type: none"> 通常の教育活動に近づけることが大切と考えており、それに向けた方策を提示していただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> 国の衛生管理マニュアルに基づき、各学校が適切に対応できるよう徹底をしていただきたい。 	<p>◎ With コロナに向けた、社会経済活動との両立のための対策の一環として、国の基本的対処方針が変更され、療養期間の見直しなどが行われたところであり、道教委では、各学校及び市町村教育委員会に対し、そのポイントを整理の上、学校における留意事項等を周知してきたところであり、引き続き、全国知事会を通じて、学びの保障に留意し、地域の実情に応じた効果的な対策が選択できるよう、基本的対処方針の更なる改定・見直しについて、機会を捉えて国に要請していく。</p> <p>○ 国の衛生管理マニュアルについて、機会あるごとに通知等により周知を実施しているところであり、今後とも、様々な研修会や会議の場等において事例を提示し具体的に説明するなど、引き続き、地域の感染状況を踏まえ、各学校が適切に対応できるよう指導の徹底を図っていく。</p> <p>◎ 学校における感染症対策の充実を図るため、感染制御や換気の専門家とともに学校を訪問し、指導助言に努めており、今後はその成果を広く普及するよう進めていく。</p>
⑧地域経済・事業者支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域なり、地域経済への影響とその対策ということも、今後、重要な論点になってくると思うので、議論を進めるための基礎的なデータ、情報の整理をぜひお願いしたい。 サービス業などにおいては、労働力不足となっている現状から、今後の需要の回復を見据えて、雇用の確保も、注力をお願いしたい。 	<p>○ 四半期ごとに実施している企業経営者意識調査(BSI)の中で、令和2年から、新型コロナウイルス感染症の影響についても継続的に調査を実施してきたところであり、引き続き、当該調査を通じ、データ収集等を進めていく。</p> <p>○ 北海道異業種チャレンジ奨励事業「今こそジョブチャレ北海道」など人手不足業種への転職支援事業を通じて、労働移動の促進に努めてきた。引き続き、雇用確保の取組を進めていく。</p>

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
⑧地域経済・事業者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な感染防止対策の実施、病床数の拡充による、病床逼迫の回避、ワクチン接種の促進などにより、行動制限を課さない状況を維持するということが、経済を萎縮させないための前提として重要。その上で、事業者の雇用維持、事業継続に対する切れ目のない支援が必要。 ・商工会・商工会議所などがその機能を発揮できるようにサポートし、支援機関と振興局との連携の強化等に一層きめ細やかな、相談体制を築いていただきたい。 ・需要喚起策につきましては、その時点でとり得る最大限の施策をお願いしたい。 ・支援機関や振興局などを通じて現場の声を丁寧に拾い、影響を受けている様々な事業者にきめ細やかな支援が行き届くように策を講じていただきたい。 	<p>○ 「道内事業者等事業継続緊急支援金」、「中小企業総合振興資金」などの支援策を通じて、地域経済や事業継続に対する支援を実施してきたところであり、引き続き、支援を行っていく。</p> <p><知事会を通じて国に対し要請している事項> 国の責任において、実情に十分に配慮した幅広く手厚い、大胆な経済支援・生活支援策を講じ、早期に執行すること。</p> <p>○ 各地方推進本部を通じて地域の商工会や商工会議所などと情報共有を図るとともに、地域の事業者の支援施策の活用促進に向けて、連携した取組に努めてきたところであり、引き続き、商工会議所等との連携を進めていく。</p> <p><知事会を通じて国に対し要請している事項> 国の責任において、実情に十分に配慮した幅広く手厚い、大胆な経済支援・生活支援策を講じ、早期に執行すること。</p> <p>◎ 「どうみん割」、「ほっかいどう認証店応援クーポン」などの需要喚起策を実施してきたところであり、今後は、全国旅行支援を展開するとともに、引き続き大規模な誘客宣伝活動等を行うことで、需要喚起策を図っていく。</p> <p>○ 関係機関や振興局との連携はもとより、業界団体や地域の事業者の声に真摯に耳を傾け、支援ニーズの把握に努めるとともに、引き続き北海道経済対策推進本部及び各地方推進本部を通じて、迅速な情報共有を図り、効果的かつ効率的な情報発信や事業の執行に努めていく。</p>
⑨その他 (効率的な換気)	<ul style="list-style-type: none"> ・換気の重要性について再確認して、具体的な行動につなげる、例えばCO2センサーを設置して、換気を意識するようといったような行動を強く働き掛けていく必要がある。 	<p>○ 高齢者施設に対する効果的な換気のポイントを周知するとともに、会見等で呼びかけを行っているほか、手指消毒や体調管理、効果的な換気など、改めて、基本的な感染防止対策の徹底について、医療の負荷に直結する重症化リスクの高い方や基礎疾患のある方をはじめ国民や外国人観光客等に分かりやすく、国として呼びかけるよう、全国知事会との連携の下、求めてきており、引き続き、機会を捉えて、引き続き機会を見て国に求めるとともに、呼びかけを行っていく。</p>
⑨その他 (保健所の体制整備)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所の体制強化ということが謳われているが、人員増も含めて、今いる職員の心のケアも含めた健康確保措置を取るようしていただきたい。 	<p>○ これまでも、職員数を増やすとともに、会計年度任用職員の採用や、振興局からの応援職員の確保、その他業務の本庁一括執行といった、取組を行ってきたほか、保健所の業務負担増に鑑み、健康観察業務の民間委託を全保健所で実施している。</p> <p>また、全数届出見直しに伴う、陽性者健康サポートセンターの運営などにより、保健所の負担軽減を図っており、引き続きその低減に取り組んでいく。さらに、職員の心のケアについては、振興局の保健師による相談対応や産業医による面談などにより取り組んでおり、今後も引き続き、こうした職場環境の改善に取り組んでいく。</p>

分類	主な意見(7月22日)	道の対応状況(9月末現在)
⑨その他 (生活困窮者支援)	<ul style="list-style-type: none"> 道としても、社会福祉協議会と連携して、特例貸付金の利用者に対する生活支援、就労支援に力を入れていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も道社会福祉協議会等と連携しながら、特例貸付金の利用者に対する支援を行っていくとともに、円滑な償還に資する制度設計などについて、引き続き、国に要望していく。 <p><国に対し要請している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既往債務の返済が困難となる事業者の増加が懸念されることから、既往債務の条件変更や借換などを促す施策を強化すること。
⑨その他 (第7波の分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第7波の要因については、まだ明確に整理されていないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第7波の要因の一つと指摘されるBA. 5系統は、現在の主流となっているほか、BA. 2系統と比較して感染者増加の優位性が示唆されている。また、BA. 1系統やBA. 2系統と比して、既存免疫を逃避する傾向が示されているが、感染力に関する明確な知見は示されておらず、道としては、国の動向等を注視しながら、警戒感を一層高めつつ、ゲノム解析による監視を継続するなど、感染状況をしっかりとモニタリングしていく。